

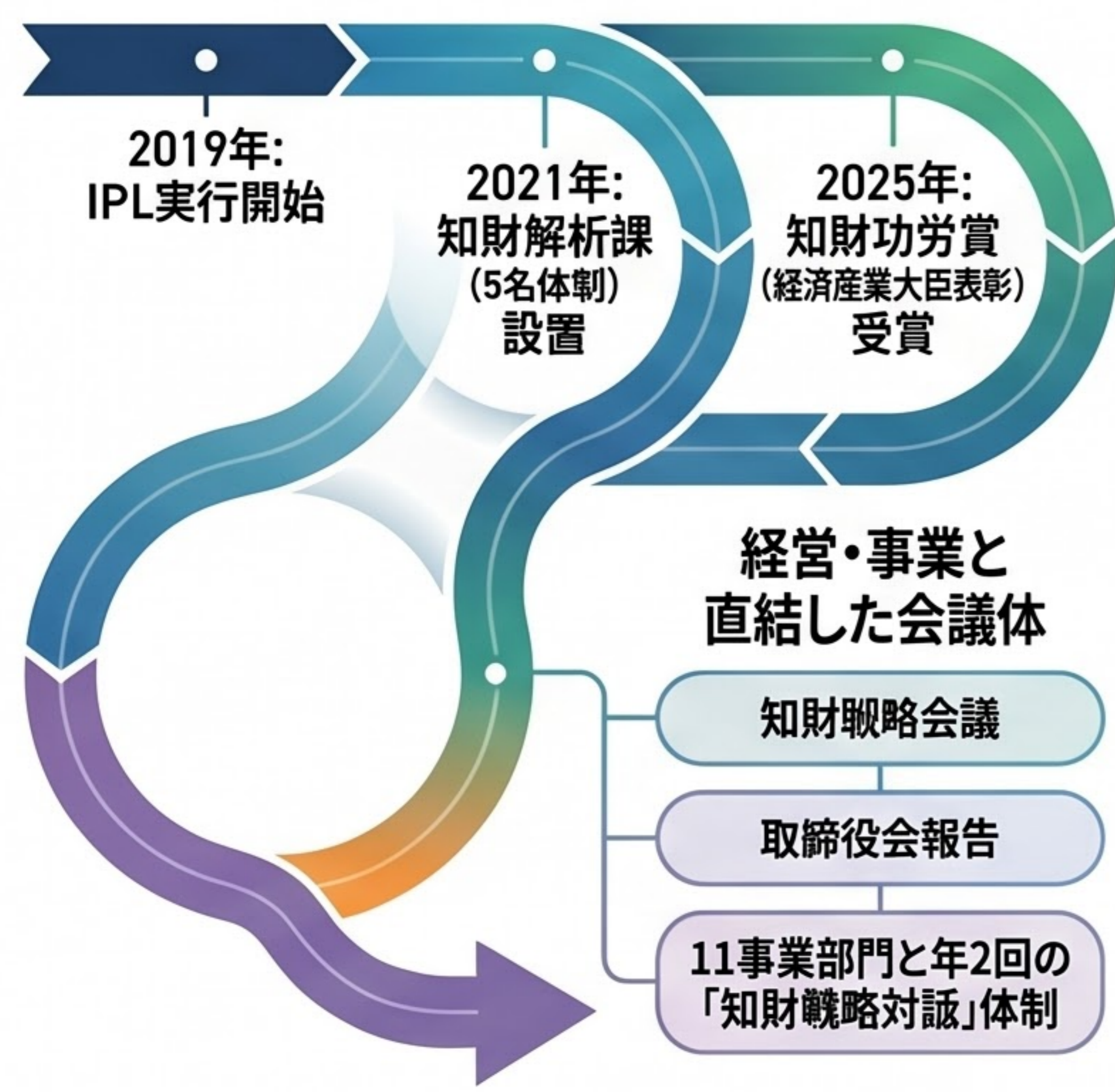
古河電工のIPランドスケープ変革：経営統合から生成AI実装への軌跡

知財経営の進化とガバナンス



知財キャリアを持つ経営トップ
現社長の奈平 秀雄氏は知財部で約10年の経験を持ち、経営判断に知財視点が組み込まれる強力な背景となっています

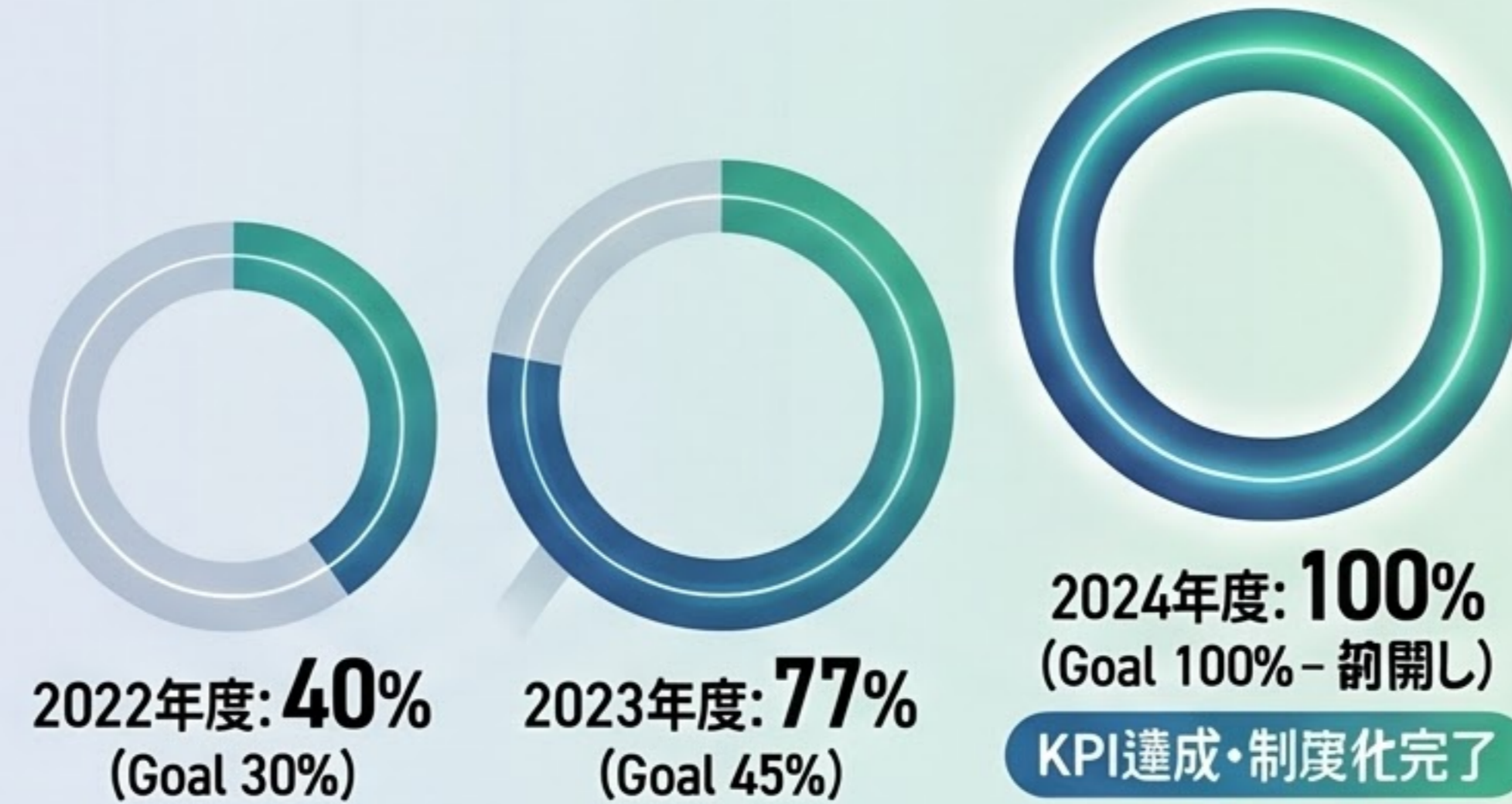
CEO



実績に裏打ちされた成果(KPI)

IPL実施率100%を前倒し達成

事業強化・新事業創出テーマに対するIPL実施率



49件

年間49件の案件と9割の達成率
事業部門からの評価において9割のテーマで目的を達成しました

事業化への具体的な寄与



半導体製造用テープの戦略強化
「インプラレーザシステム」の事業化
IPLが実際の収益や競争優位に貢献


生成AI活用の現状と将来像



独自の「知財AIエージェント」構想
単なる知年化に留まらず、独自のAIエージェントを創出し、知財活動全触の質とスピードを向上させる

現在のAI活用領域

- 発明提案書の作成支援
- 先行文献調査の要約・分析



知的資本統合マネジメントへの発展
知財だけでなく、人的資本やノウハウを含む無形資産を統合して価値創造を行う「次世代の知財部門」への進化

今後の提言(ロードマップ)



短期 AI効果の定量化

中期 間域RAGの構築

長期 無形資産OSの設計

AIによる時間短縮率やレビュー見逃し率など、具体的なKPIを設定し「効果の見える化」を推進

特許・非特許・市場情報を統合した、安全で豊富なAIエージェント理根を構築し、戦略提案の再現性を高める

知財部門を企業価値創造の中核と位置づけ、全社の知財資産を一元管理する体制を確立